

第 7 回社会福祉事業団問題等第三者検証委員会
(平成 26 年 4 月 18 日)における主な意見

テーマ	意 見
①事業団について	<p>○支援時禁止事項チェックリストの取組みを始めたことは改善の取組の一步として評価する。ただし、生活環境の改善・日常生活の把握に役立つよう、チェックリストを改善すべき。</p> <p>○更生園におけるサービス等利用計画の作成にあたって、地元の相談支援事業所など法人外部の支援員による作成に努めることが望ましい。</p> <p>○新理事長に期待している。1～2ヶ月で成果を出すのは難しいが、現場のリーダー（マネージャー）に、支援の視点をかえる必要があることを伝えられれば。</p> <p>○強度行動障害者支援事業は状態を改善して元いた民間施設や地域に戻すためのプログラムであるが、受入れ先がみつからず本来の趣旨が達成されていない状態。受入れ先が見付からない原因等について、検証委員会で引き続き検証する。</p> <p>〔○更生園における寮単位での外部からの支援について、相談支援アドバイザーを派遣することを了解した。〕</p>
②アンケートについて	<p>○保護者と民間事業者に対し、転所希望・受入れの可否等についてのアンケートを実施する。</p>
③カメラ・施設の開放性について	<p>○カメラについては全反対意見・全肯定意見ともに少ないという現状。ただ、利用者の生活を 24 時間みることになるので、設置する場合、事前によく検討し指針等定める必要がある。</p> <p>○カメラ設置で支援者・利用者ともにメリットはあるが、カメラで全ての問題が解決するわけではないことに留意する必要がある。</p> <p>○開放性を高めた場合、利用者が施設からいなくなるリスクが高まる可能性がある。全く鍵の無い施設は無い。鍵を無くした場合のことを家族にも納得してもらわないと、開放性は高められない。</p> <p>○一定ラインの利用者には鍵が必要だが、（その場合の鍵の）目的を職員が共有していなければならない。</p>
④医療関係について	<p>○投薬管理含め、看護師の動き・役割が重要。</p> <p>○診療室受診時の主訴が不明。支援員に医療関係の相談や報告のトレーニングをした方がよい。</p> <p>○他院との関係も重要。精神科のケースワーカーをおくと連携がうまくできて、よいかもしれない。</p> <p>○高齢で身体状況も悪い人が頻繁に外部受診するのは困難。親族もいない方もいる。医療問題は高齢者問題でもある。</p>
⑤障害福祉計画等について	<p>○入所の定員減と同時に地域生活の拠点が整備される必要がある。</p> <p>○方向性については検証委員会でも議論するが、定員規模については総合支援協議会（施策推進協議会）での議論になる。</p>
⑥今後のあり方について	<p>○センターについて再建や縮減などの方向性が出ていない段階で選択肢は選びにくい。</p> <p>○建物が老朽化しており、あの状態のままで指定管理 10 年の公募というのは現実的ではない。</p>